

「2024年度バルセロナ大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学工学部4年 秋山 望羽

今回のプログラムを通じて、私が最も大きく感じた変化は、英語への抵抗感が著しく低くなったことです。バルセロナ大学で出会った学生との交流では、主に英語を使ってコミュニケーションを図りました。私の英語力にはまだまだ課題がありますが、それでも相手が根気よく聞いてくれたり、時にはお互いにジェスチャーやアプリを駆使したりして理解し合おうと努める中で、「通じなくても恥ずかしがらずに何とか伝えようとする姿勢」がいかに大切かを実感しました。これによって、留学に対する気後れや国際的な場で自分の意見を述べることへの不安が大幅に和らいだように感じています。

さらに、今回訪れたバルセロナ大学では、エラスムス・プログラムを利用して来ているヨーロッパ各国の学生とも出会い、海外からの留学生に対するサポート体制の充実ぶりに驚きました。エラスムスの留学生が今年の秋から京都大学へ留学する予定だと知り、一緒に京都の街を巡ったり、日本文化を紹介したりと、自分がホスト役として案内する姿を想像してわくわくしています。こうした新たな国際的な友人関係を築けたことも、今回のプログラム最大の収穫の一つと言えるでしょう。

海外での初めてのヨーロッパ体験という意味でも、今回の派遣は私にとって大きな転機になりました。バルセロナの街並みは驚くほど美しく、歴史ある建築物の壮麗さには圧倒されっぱなしでした。地元の人々は親しみやすく、食事バラエティ豊かで、口に合うものが多かったです。こうした魅力を実際に体感できたことで、他のヨーロッパ諸国にも足を運んでみたいという前向きな想いが生まれました。

今回の派遣プログラムは、現地大学での授業や学生交流が充実していた点が特に印象的でした。先生方は留学生にも優しく配慮してくださり、講義後のディスカッションや課外活動を通じて、多文化の学生同士が互いの意見を交わす機会にも恵まれました。こうした経験を通じて、自分自身の国際理解への意欲がますます高まったと感じています。

さらに将来に目を向けると、私はタイの大学でダブルディグリープログラムを履修することを計画しています。そこでの学習や研究でも英語力は不可欠であるため、今回のバルセロナでの経験を通じて得た「英語を使う度胸や積極性」を、今後もさらに磨いていきたいと思います。加えて、タイという新たな文化圏での生活や学習を通じて、自分の視野をより一層広げたいという気持ちが強まっています。こうした国際的な経験を重ねることで、将来的にはグローバルな視点と専門性を兼ね備えた人材となることを目指し、大学卒業後の進路にも一層の可能性を見いだせるようになりました。

総じて、今回の派遣プログラムは、私の国際的な関心や学習意欲を大きく高める貴重な機会となりました。学びを通じて得た成長やネットワークを今後の学生生活、そして将来の進路選択に活かし、さらに多彩な国や地域との交流に挑戦していきたいと考えています。